

新球場の概算・・・Phase3 (現球場を使用しながら、新球場を建設する)

Phase1に対して増額となる要素

1. 現市民球場の解体撤去に関する工事費(Phase2と同じ)

広島市内の解体・処分費の確認。

2. 建設資材の荷降ろし、ストックヤードの確保(Phase2と同じ)

新球場延床面積の約3分の1のスペース確保が必要。

新球場の床面積を約30,000㎡とした場合は約10,000㎡のヤードとなる。

3. 建設地が狭いため大型車両による効率的な資材の搬出入が困難になることが予想される。従って、小型車両による非効率工事が予想されるため、それにかかる経費を上乗せする(Phase2と同じ)

解体工事を含む全工事金額を約15%の計上。

4. 工事行程が長期に渡るため、共通仮設費・諸経費が増加。また、施設機能の移設に伴う仮設工事、部分改修工事、盛替工事が発生する。

積上共通仮設費は約2倍

諸経費は1.65倍(工期36ヶ月/22ヶ月)

移設・盛替に対し7.5千円/㎡を計上

概算工事費

野球場総合計(A)	9,949,000,000	・・・ Phase 1
解体撤去工事(B)	750,000,000	30,000㎡×25,000円
移設・盛替費(C)	225,000,000	30,000㎡×7,500円
(A) + (B) + (C)	10,924,000,000	・・・ ()
敷地条件による割増金額(D)	1,639,000,000	() × 15%
(A) + (B) + (C) + (D)	12,563,000,000	・・・ ()
共通仮設費・諸経費(E)	754,000,000	() × (3% + 3%)
率共通仮設費・諸経費1.65倍(F)	3,731,000,000	() × (3% + 15%) × 1.65
() + (E) + (F)	17,048,000,000	158.8億円
消費税	852,000,000	
工事費合計	17,900,000,000	
ストックヤードの借地料	600,000,000	
建設事業費合計	18,500,000,000	

建設事業費合計、Phase1と比較すると2年間で59億円のアップ